

新型コロナウイルス感染症関連情報 ワクチンの接種状況

市は、市内医療機関での個別接種の拡大や新千歳空港国際線ターミナルを活用した大規模接種、千歳タウンプラザグループ接種会場の新設などにより、ワクチン接種を受ける機会を増やし、希望する市民が早期に接種を受けられるよう取り組んでいます。

千歳のワクチン接種率

65歳以上の方の接種率（7月28日時点）



ワクチン接種会場

接種会場	接種日
集団	イオン千歳店 月～金（祝除く）
	千歳タウンプラザ 8月：土（祝）、8/11 9月：金（土）（祝）
個別	千歳市民病院 月～金（祝除く）
	北星病院 月火木（祝除く）
	千歳豊友会病院 月～土（祝除く）
	向陽台ファミリークリニック 月火木金（祝除く）
	千歳第一病院 月～金（祝除く）
	梅ヶ丘クリニック 月～金（祝除く）
	しののめクリニック 月火木金土（祝除く）
	ちとせおひさまこどもクリニック 月～金（祝除く）
	千歳駅北クリニック 月～土（祝除く）
	くみたこどもクリニック 月～土（祝除く）
	矢尾外科胃腸科 月～土（祝除く）
	尾谷内科 月～土（祝除く）
	新千歳クリニック 月～土（祝除く）
	住吉こどもクリニック 月～金（祝除く）
	はせがわ内科クリニック 月～土（祝除く）
	千歳インター消化器・内科 月火木金（祝除く）
北斗内科小児科医院 月～金（祝除く）	
三上内科呼吸器科クリニック 月火水金（祝除く）	
千歳しなの内科 月～金（祝除く）	
こにし小児科医院 月～金（祝除く）	

接種スケジュール

対象者	予約開始日
50歳以上 (S47.4.1以前生まれの方)	予約受付中
40歳～49歳 (S47.4.2～S57.4.1)	8月10日火 9:00～
30歳～39歳 (S57.4.2～H4.4.1)	8月24日火 9:00～
12歳～29歳 (H4.4.2～H21.7.31)	8月31日火 9:00～



7月17日から集団接種会場として開設した《千歳タウンプラザ》では、1日あたり最大で1,000の方が接種可能です。



←ワクチン接種に関するホームページ

※18歳以下の方は、原則保護者同伴で来てくださいます。
詳しくは、市ホームページかコールセンターでご確認ください。
※医療機関の都合などにより休診となることがあります。
※8月以降に12歳になる方には、誕生月の翌月に接種券を送付します。

電話予約 & 問い合わせ先 千歳市新型コロナウイルスワクチン接種コールセンター

TEL 0570-023-600（平日 9:00～18:00）

※耳やことばの不自由な方は FAX 24-8418 へ

※寝たきりなどにより接種会場に行くことが難しい方は往診による接種を受けることができます。ご希望される方はコールセンターまでご連絡ください。

新型コロナウイルスワクチン接種対策室 主幹（新型コロナウイルスワクチン接種担当）



新千歳空港国際線ターミナルでの大規模接種の様子。7月10、11、31日、8月1日の4日間合計で約8,000人に接種を行いました。

8/22まで

夏の再拡大防止特別対策を実施中

夏休みシーズンは人の動きが増えるため、感染対策の徹底を

北海道は大型連休、お盆など夏休みシーズンの到来による人の移動の活発化を見据え、7月12日から8月22日までを《夏の再拡大防止特別対策期間》としています。
※7月29日時点の情報です。

市民の皆さんには、引き続き感染予防行動の徹底、感染リスクを回避できない場合の札幌市との不要不急の往来を控えていただきま

すようお願いいたします。
また、道外への移動が避けられない場合は、体温チェックや必要に応じてPCR検査を受けるなど、体調管理の徹底をお願いします。



いま、私たちに求められていること

日常生活では…

- ◆コロナウイルスが感染性の高いとされるデルタ株に置き換わることを想定し、《3つの密（密閉・密集・密接）》、《感染リスクが高まる5つの場面》を回避
 - ◆人と人との距離の確保、マスクの着用、手指消毒などの基本的な感染防止対策を徹底
- ### 特に外出の際は…
- ◆重症化リスクの高い方と接する際は、基本的な感染防止対策をさらに徹底
 - ◆感染リスクを回避できない場合は、札幌市との不要不急の往来を控える
 - ◆《緊急事態措置区域》、《まん延防止等重点措置区域》との不要不急の往来を控える
 - ◆その他都府県への移動は、基本的な感染防止対策を徹底するとともに、特に5人以上の会食を控えるなど慎重に行動する

感染リスクが高まる「5つの場面」

<p>場面① 飲食をともなう懇親会など</p> <p>○注意力の低下や、大きな声になりやすい ○狭い空間での長時間・大人数の滞在 ○回し飲みや箸などの共有</p>	<p>場面② 大人数や長時間におよぶ飲食</p> <p>○深夜のはしご酒などは長時間におよぶ ○大人数、5人以上では大声になり飛沫感染がしやすい</p>
<p>場面③ マスクなしでの会話</p> <p>○飛沫感染、マイクロ飛沫感染がしやすい ○昼カラオケなどでの事例がある</p>	<p>場面④ 狭い空間での共同生活</p> <p>○長時間の閉鎖空間の共有 ○寮の部屋やトイレなどの共有部分での事例がある</p>
<p>場面⑤ 居場所の切り替わり</p> <p>○休憩室、喫煙所、更衣室などへの往来（疑われる事例がある）</p>	

飲食のときは…

- ◆感染防止対策が徹底されていない飲食店などの利用は控える
- ◆路上・公園などにおける集団での飲酒など、感染リスクが高い行動を控える
- ◆飲食は4人以内など少人数、短時間で深酒をせず、大声を出さず、会話のときはマスクを着用する（「黙食～食事は静かに、会話はマスク～」の実践）

町内会活動のいま

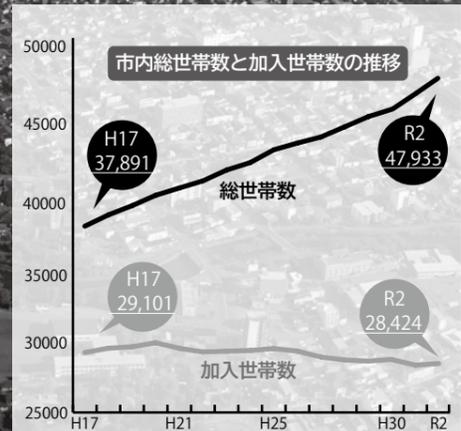
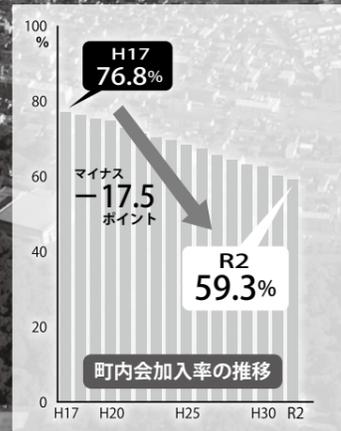
皆さんは「町内会」と聞いて何を思い浮かべますか？

夏休みのラジオ体操、地域の美化活動、花火大会、運動会、夏祭りなど、子どものころからの思い出がたくさん思い浮かぶ方は多いのではないのでしょうか。

かつては「家」を単位とした地域的つながりが重視されており、全国的に町内会活動が活発に行われていました。近年では、「個人」を単位としたつながりが重視されつつあり、町内会はその存在意義が問われています。

長期化する新型コロナウイルス感染症の拡大により、私たちの生活様態は一変しました。テレワークの推進や旅行の自粛などにより自宅で過ごす時間が増え、人々の感心は、くらしに身近な場所へと集まっています。

いまだからこそ、「家」を単位とした地域のつながりである「町内会」について考えてみましょう。



コロナ禍での町内会の取り組み

新型コロナウイルス感染症の影響により、町内会活動について、「再開を望む」「控えたほうがいい」など意見が分かれ、判断に迷っている地域は多いのではないのでしょうか。

ここでは、コロナ禍でもつながりを絶やさないために活動をしている地域の事例を紹介します。



手紙・ポスティングでつながる

《東郊町内会》は、高齢者世帯約160戸に折り紙やイラストを添えた手紙をポストに投函しました。手紙には「家の中でも体操しましょう、天気の良い日はお散歩を」など体調を気遣う手書きの文章が書かれています。

電話・声かけ見守りでつながる

《寿町内会》は、昨年9月の敬老の日に町内に住む75歳以上の方約200人にお菓子の詰め合わせを配布しました。コロナ禍のため集会形式での開催は見送り、代わりに町内会長と福祉委員が見守りを兼ねて各家庭に配布しました。



ソーシャルディスタンスでつながる

《富丘西町内会》は、《富丘集会所（屋内）》で行っていた介護予防サロンを《富丘4号公園（屋外）》に移して再開しました。広々とした屋外で十分な距離を保ち、消毒・マスクなどの感染予防対策をとりながら《いきいき百歳体操》や《4色ラダー》で体力づくりを行っています。



参考：千歳市社会福祉協議会 コロナ禍での地域活動事例集

そもそも町内会って？

Q1
町内会ってどんな活動してるの？

A1

Q2
町内会って必ず加入しなきゃいけないの？

A2

Q3
町内会ってどれくらいあるの？

A3

ごみステーションの設置や管理、防災訓練の実施、防犯灯の設置、美化活動、各種レクリエーションの開催など、地域の皆さんが「安心して・気持ちよく・楽しく」くらすことができるよう、地域のたくさんの人が助け合って活動しています。

町内会は、自分たちが住んでいる地域をより良いものにするために、自主的に活動している任意団体のため、加入は強制ではありません。町内会活動により、地域が安心・安全に保たれていますので、市としては、できる限り町内会に加入し、皆さんで協力して活動していただきたいと考えています。

千歳には、146の町内会があります（令和3年4月1日現在）。10世帯ほどの小規模な町内会から、1,000世帯を超える大きな町内会まであり、それぞれの地域で課題解決や地域の活性化のためにさまざまな取り組みをしています。

ホームページを活用した電子回覧板の導入や無料通信アプリLINE（ライン）のアカウントを開発するなどICT（情報通信技術）を積極的に活用し、町内会運営を行う白樺町内会にお話を聞きました。

【丸山さん】市町連が主催するホームページの勉強会に参加するうちに白樺町内会でもホームページを作りたいと思うようになりました。

【橋本さん】丸山会長から「白樺町内会のホームページを作りたい」との言葉を聞いたとき、「市内で最も高齢化が進んでいる白樺町内会では無理でしょう」と思いました。そもそも、会長はそのときガラケー（スマホではない携帯電話）でしたからね（笑）。ただ、コロナの影響で住民の方から「回覧板を回したくない」などのご意見をいただいたので、昨年11月にホームページを開発し、回覧板の文章を掲載しました。（※紙の文書も各戸配布しています。）

【丸山さん】ICTを活用した情報発信を行うため、今年4月に子育て中の若い世代を中心とした《未来倶楽部》という組織を作りました。未来倶楽部の作左部さんにICTの使い方を教えてもらいながらホームページやラインを運用しています。

【作左部さん】ホームページは回覧板でお知らせする内容を中心に月1回の頻度で更新しています。そのほ

オンラインでつながる白樺町内会の取り組み

写真左から
 未来倶楽部長：作左部 麻里子さん
 副会長兼総務部長：橋本 純子さん
 会長：丸山 成士さん
 会館管理運営部長：新井 一郎さん

コロナ禍でなかなか集まらないため、役員のグループラインを作り意見交換をしています



か、白樺町内会に関する情報があれば随時更新しています。

【橋本さん】町内のインターネット環境を把握するため、今年5月にアンケート調査を行いました。回収率は低かったのですが、「スマホの講習会を開いてほしい」などの意見がありました。

【作左部さん】町内にはガーデニングを行っている方やペットを飼っている方も多いため、今後はスマホで撮った写真をホームページで共有するなど、電子回覧板以外でホームページを見るきっかけや楽しめる仕組みを作りたいですね。また、「ホームページを開くと高額な費用を請求されるかもしれないので怖くて開けない」との声も聞かれますので、今後は、ICTに関する講習会を開き、安心して利用できる環境を整えていきたいです。

これからの町内会運営

市と千歳市町内会連合会（市町連）が協働し、平成30年度から令和2年度までの3年間、「千歳市町内会活性化支援事業」に取り組みました。

千歳市町内会活性化支援事業は、住民が地域に求めるニーズの変化や、高齢化による町内会の担い手不足など、地域で抱えるさまざまな課題を把握し、その解決に取り組むことで、町内会活動を活性化させ、その効果を市全体に波及させることを目的として実施しました。

具体的には、町内会活性化支援セミナーの開催や、コンサルティング会社による個別の「モデル町内会支援」、若い世代の参画に向けた取り組みなどを行いました。

これまでの町内会活動を見直し、課題を把握し、解決への糸口を探り、活性化に向けた取り組みを始めるための準備を整えました。

特に、令和2年以降は、新型コロナウイルス感染症のまん延により生活が一変

したため、人々が地域に求めるニーズも変化し始めている。ウイズコロナ・アフターコロナの町内会活動について、町内会の加入・非加入にかかわらず、地域住民の皆さんが協力して考えていく必要があります。

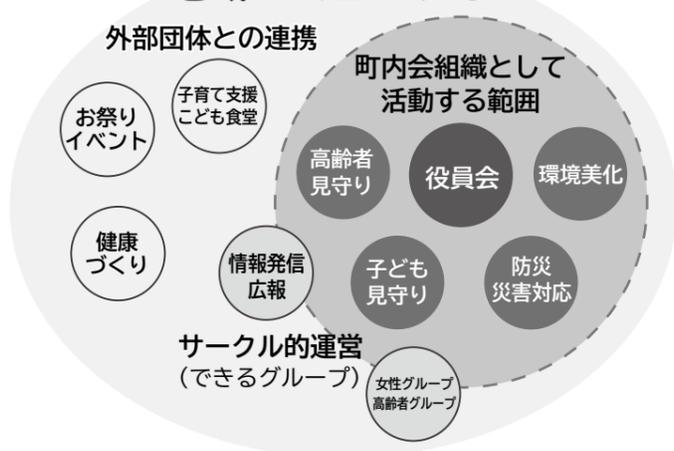
「千歳市町内会活性化支援事業」は昨年度で終了しましたが、千歳市の町内会活性化への挑戦は今年度以降も続きます。

3年間の事業の中で明らかになった共通の「課題」や活性化の「ポイント」などは、「千歳市町内会活性化のためのヒント集」として冊子にまとめ、すべての町内会に配布したほか、市町連のホームページでも公開されています。

ヒント集を手に取り、皆さんがお住まいの地域の町内会の未来について考えてみましょう。



地域コミュニティ



アフターコロナの町内会は外部団体と連携し地域の方のニーズを取り入れることが求められる

「地域全体の組織力が落ちている」という心配が、活性化支援事業スタートの理由でした。千歳の町内会加入率は、約60%で減少傾向が続いています。なぜ加入率が下がっているのかを調べると転勤にともなう転出入や単身者が多く、地域に定着していないことがわかりました。ライフスタイルの変化による加入率の低下、高齢化による担い手不足が顕著に出てきたことが考えられます。さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大は町内会運営に強い影響を与えました。コロナ禍では高齢者だけでなく、リモートで仕事や学生生活をしている若い方も孤独に悩んでいます。そのような孤独な方を救えるのが地域コミュニティであり、町内会の役割はますます大事になってきます。これからの町内会は、地域コミュニティの課題解決やニーズに対応するため、外部団体に「場」と「機会」を提供する組織になることが大切です。町内会役員には無理のない範囲で活動を行いながら、地域の方のニーズを取り入れていくことが求められています。全国的にみると、町内会は新しいものを取り入れることが難しい組織ですが、千歳は「ちとせの輪」という新しい組織との連携もはじまっていますので、これからの新しい町内会を動かしていくチカラになるのではと期待しています。



(株) GLOCAL DESIGN 代表取締役
(株) K I T A B A 取締役会長
酒本 宏さん
Sakamoto Hiroshi
地域・まちづくりプランニング
/ コミュニティデザインなど

ICTの活用で個人のライフスタイルにあった町内会活動を

町内会活性化支援事業を進める前と後での大きな変化はICT（情報通信技術）の活用です。これまで町内会単独でホームページを作った事例はありましたが、「管理費の負担が大きい」、「継続して更新ができない」などの課題がありました。そこで、市町連のホームページに各町内会のページをリンクをさせることで、各町内会の管理費はゼロで、自分たちのホームページを作成・更新できる仕組みを作りました。現在、10町内会がこの仕組みでホームページを運用しています。ICTは整備をして終わりではなく、何を情報発信するのか、どう有効活用するのが大切になります。町内会活動のおもな目的である防災・防犯、福祉、環境美化（ごみ問題）などにひとりでも多くの方が関わるように、時代にあった情報共有の手段としてICTを整備しています。コロナ禍において、ICTの活用は若い世代の町内会活動への参加を促すためにとても重要です。ICT化が進めば、時間や場所の制約でこれまで参加することができなかった方も自分のライフスタイルにあった町内会との関わり方ができるのではないかと考えています。

～市町連の取り組み～



千歳市町内会連合会
事務局長
徳永 隆さん
Tokunaga Takashi
千歳市幸町4丁目30
☎(49)7100 / ☎(49)7300

市町連のホームページはコチラ↓

※ホームページの開設や、メール、ラインの活用方法についてのセミナーの案内もご覧いただけます



千歳市町内会連合会 ライン公式アカウント→

ホームページの掲載情報や災害情報をお伝えします



ちとせの輪との連携

<https://wa.chitose-choren.jp/>

令和元年度に若い世代を対象としたワークショップを開催し、町内会と連携して活動を実践するネットワークとして「ちとせの輪」が誕生しました。「ちとせの輪」は、若い世代が自身の得意なことや関心のある事を町内会で実現し、目標の達成や仲間作りをすることで、町内会側も新しい取り組みや役員の負担軽減を図ることができ、協働の関係の中で町内会の活性を図ることを目的としています。今後、「ちとせの輪」の活動を拡大させ、町内会に加入していない若い世代の皆さんにも地域活動に興味を持ってもらい、幅広い世代により町内会を活性化させていきたいと考えています。

町内会活動 ICT 活用支援事業

市町連は、今年度、ICT（情報通信技術）を活用し、「オンライン会議」や「SNSを使った電子回覧板」などを取り入れたいと考えている町内会に対して、個別に講習会などを行う事業を実施しています。また、今後は、ICTを活用するためのセミナーの開催や一時的にパソコンやスキャナーの貸し出しなどを行い、意欲はあるもののICT端末を持っていない町内会関係者の支援を行う予定です。ICTの活用は新型コロナウイルス対策になるだけでなく、自宅で会議に参加することで役員の負担軽減につながり、会員もスマートフォンやパソコンでどこでも回覧板を見ることができるなど利便性の向上が期待できます。



活用してありますか？ 回覧板の電子化

先月号でもご紹介したとおり、市は、「電子回覧板」の導入を推奨していますが、その手法はさまざまです。おもな方法としては、町内会のホームページへの電子データの掲載や、Eメールによるデータ送信、ラインやフェイスブックといったSNSの活用が挙げられますが、それ以外にもさまざまな手法が考えられます。ぜひ、町内会の皆さんで話し合っただけ、各町内会の現状に合った「電子回覧板」の活用方法を探してみてください。

第20回

- Q1** 紙の回覧文書はなくなると？
町内会・自治会による回覧は、インターネット環境がない方への情報提供手段として重要なものであるため、今後も紙の回覧文書の発送は続けます。一部の町内会・自治会では、「電子回覧板」と「紙の回覧」を併用しています。
- Q2** 町内会未加入世帯にも回覧されるの？
回覧文書は、町内会に加入している世帯だけに回覧します。全世帯に周知が必要な情報は、市ホームページや広報ちとせなど全戸に情報提供できる媒体を活用しています。町内会の回覧には、市以外の機関・団体が発行した回覧文書や町内会行事のお知らせなど、お住まいの地域に必要な情報が含まれています。ぜひ、町内会への加入をご検討ください。
- Q3** 回覧文書はいつ発送しているの？
多くの町内会が毎月1日と15日を回覧日に設定しているため、市は、1週間前の8日と23日を目安に回覧文書が到着するように発送しています。